

◆ 2017年9月27日発行ラインナップ

- ・北海道の作柄概況について
- ・深刻度を増す肥料物流

# 北海道の作柄概況について

北海道では実りの秋を迎え次々と各作物の作柄が発表されている。本年の北海道は6月が全般的に低温、地域によっては多雨、7月は全般的に高温に推移し、8月上旬が低温傾向、8月下旬は平年より若干高めの気温で推移した。平年であれば高温干ばつの時期に低温多雨、初夏は記録的な高温、短い盛夏時期は低温に推移してしまい、作柄を見通しづらい難しい年となった。ここで北海道農政局より発表されている9月15日現在の概況をご紹介する。

## ◆概況◆

9月前半の気象は、前半は高気圧の張り出しの中となって、晴れた日が多くなったが、後半は低気圧の影響で雨や気温の低い日が多くなった。全道的に気温は平年より低く、降水量は平年並み、日照時間は多くなった。各作物の生育は、9月前半の低温の影響から、水稻、豆類などが遅れている。また、9月上旬の晴天により馬鈴薯、たまねぎ、二番牧草の収穫作業は順調に進んでいる。

## ◆生育状況・農作業状況◆

- ・水稻：9月前半の低温の影響で、登熟が遅れている。
- ・馬鈴薯：収穫作業は、9月前半の晴天により順調に進んでいる。収穫進捗率は49%。  
9月1日発表によると、品質は平年に比べ、いも数多く、1個重はやや小さい。
- ・大豆：生育は、平年並みに推移している。
- ・小豆：9月前半の低温の影響で、登熟はやや遅れている。着莢数はやや少ない。
- ・てん菜：生育はやや早く進んでいる。
- ・たまねぎ：収穫作業は、晴天により順調に進んでいる。収穫進捗率は85%。  
9月1日発表によると、品質は平年並み。
- ・牧草（2番）：二番草の収穫作業は、晴天により順調に進んでおり終盤を迎えている。
- ・デントコーン：9月前半の低温の影響で、登熟がやや遅れている。

農林水産省北海道農政事務所によると、水稻については6月が低温、日照不足で経過したことから、穂数が「やや少ない」、もみ数が、「やや少ない」と見込まれていた。7月中旬から下旬にかけて高温、少雨で経過したことでもみ数がやや少ないものの、登熟は「やや良」と見込まれるため、作柄は、「平年並み」が見込まれるとの見通しが示されている。

全道の作柄を見ると（図1）上川留萌地方が「やや不良」、北空知・南空知・石狩・日高・後志・胆振・桧山・渡島地方が「平年並み」、オホーツク・十勝地方が「やや良」となっている。北海道では定植期の5月下旬は低温が続き、圃場での稲の様子は、葉色が黄色に見えるほど生育に影響があった。6月も低温曇天により生育が遅れ気味だったが7月に記

（次ページへ続く）

図 作柄表示地帯別の作柄の良否（8月15日現在）



注：本図で用いた作柄の良否の表示区分は、「良」が対平年比106%以上、「やや良」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや不良」が98~95%、「不良」が94%以下に相当する。

図1) 北海道農政事務所 平成29年産水稻8月15日現在における水稻の作柄概況（北海道）より

(前ページより続く)

録的な猛暑が続き、生育が盛り返したと思った矢先、8月上旬の低温、低日照となった。8月下旬には気温も戻り、登熟が順調に進むと見込まれたが、9月前半の低温により登熟が遅れている。今後の生育状況の推移に注視していきたい。(札幌支店)

## 深刻度を増す肥料物流

### 重袋の手積み手下し集配に敬遠

ネット通販の飛躍的な取引量の拡大に伴う右肩上りの集配量と再配達の多さから、集配ドライバーの労働条件改善と賃上げが話題となっている。それに伴い、荷主との配達料金の値上げ交渉が開始されているのはご承知の通りだ。この動きは肥料業界にもあり、肥料の小口持込の運賃改定を求める声が相次いでいる。これは小口配送だけの話では留まっていない。最近はどの肥料メーカーも総じて「車がとれない」という嘆きが聞こえてくる。近年では当用期に引き取るケースが年々増加傾向にあり、特に2~3月の時期に肥料を配送してくれる車の手配に大変苦慮している状況となっている。また、当用期に引取りが集中する関係で工場の荷役待ちをするケースが目立ち、「手待ち時間」問題も重なり3月の肥料工場への引取りを敬遠したいと言ったドライバーの声を聞くことが多くなった。

工場の出荷体制の問題もあるがそもそも何故、肥料を運んでくれる車が取れにくくなっているのか。これはドライバーの平均所得が重労働の割には低く、全産業よりも平均労働時間が長いことが主因となっている。厚生労働省は最低限遵守すべきトラックドライバーの労働時間のルールとして「運転時間は2日平均で1日9時間以内」、「連続運転は4時間以内」、「休憩は連続で8時間以上」の徹底を告示している。肥料運送の場合、コストを抑えるために「帰り荷」と称した便を利用されることが多い。上記の労働条件となったことで特に長距離荷役は1日で9時間内の運転を超過してしまうため、帰り荷価格運賃で運んでもらえる所が極端に少なくなってしまっている。長距離便が姿を消しつつあるのはこのことだ。肥料は最近軽量化が進み15kg袋の商品が増えつつあるが、基本は20キロ袋。パレットを持ち込んでの輸送や工場から出荷の際はシートパレットによる積み時間の短縮化等もメーカー毎に対応は進んでいるものの、手積み、手下しの場合もまだ多くドライバーに敬遠されるケースが増えているようだ。また、パレットの規格も様々で統一化されていないためにすぐさまに統一するには困難であるように思える。レンタルパレットもパレットの再集荷の問題や紛失が多く利用側のモラルの欠如も指摘されている。また、肥料商はコメの集荷を商いとしている場合もあるのだが、コメで利用するパレットと肥料で利用するパレットの規格が異なるため簡単にはいかない。配送の場合においては積み下ろしの場所で担ぎ込みを要する配送場所も少なくない。最近ではサービスと黙認されていた部分が見合い料金を請求してくるケースも増加している。解決しなければならない問題は山積しているが、我々の業界内だけでは解決が難しい問題であると思われる。

お彼岸が過ぎ、秋の気配が加速してきました。美味しいお米の収穫まであと少し。待ち遠しいです。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：[macjournal@mcagri.co.jp](mailto:macjournal@mcagri.co.jp) URL <http://www.mcagri.jp>

## 国際農業資材 EXPO2017

### 出展のお知らせ

来る10月11~13日に幕張メッセで開催される、国際農業資材 EXPO（アグリテック）に出展致します。農業資材 EXPO はアジア最大の農業資材・肥料・機械の展示商談会です。入場招待券は当社の各営業担当者までお問い合わせください。皆様のご来場をお待ち申し上げております。

期間：10月11日（水）～13日（金）

10:00～18:00（最終日は17時まで）

場所：幕張メッセ（千葉県）

詳細：<http://www.agritechjapan.jp/>

お問合せ：本店特販部 / 松本（03-5275-5513）